山陰中央新報

（第３種郵便物認可）

錦織監督 映画の現場から

出雲の国から世界へのメッセージ

宗教超え共に平和祈る

●○●26

今年も出雲国神仏霊場合同祭事「世界平和祈願祭」に参加させていただいた。ご縁があり、お邪魔するようになって今年で5回目だ。ご存じの方も多いと思うが、8年前出雲の国「社寺縁座の会」が結成され、毎年宗教や宗派を超え、世界平和と人々の安寧が祈られている。

霊場は現在20番まであって参画の20社寺の神職さんと住職さんが一緒になって祭事が執り行われている。今年は第4番の佐太神社が祭場であった。佐太神社に伝わる佐陀神能が昨年ユネスコ無形文化遺産に登録されたのは記憶に新しい。当日は山陰全域に暴風警報が出ており悪天候が懸念されたが風は強くならず、途中で降り始めた雨も祭事が終わると同時にすっかり上がったので、皆口々に「かん（神）さんのおかげだ」と言い合っていた。神が近くに存在する出雲の国らしい光景だ。

今年の世界平和祈願祭より

夕方から厳かに始まった祭事はとても素晴らしかった。特に座長の清水寺貫主と斎主の朝山宮司お二人のメッセージに感動した。世界では宗教間の争いによって悲しい出来事が毎日のように起こっている。世界の平和や人々の安寧のために宗教や祈りがあるのだとしたら、宗教同士いがみ合っている場合ではないはずだ。

出雲の神と仏が一体となって発信するメッセージに、今の時代ほど世界の心の共生が必要な時はない、と強く感じたのは私だけではなかったはず。宗教や宗派を超えて一緒に祈る姿こそ真の宗教者の姿ではないかと縁座の会の皆さんの姿に思うところがあった。また、佐太神社で般若心経が唱えられたのは何と345年ぶり、というお話が朝山宮司からあった。歴史的な瞬間に立ち会えた喜びをも感じさせていただいた。

神社で般若心経が唱えられ、お寺で祝詞があがるのをみていると、何とも不思議な感じがするが、よく考えてみるともともと神社と仏閣は仲が良かった。それぞれが尊重し合いながら共生する形で神さん、仏さん両方に日本人は手を合わせてきた。昔は当たり前に神社とお寺が同じ敷地内にあった。神と仏が仲良く平和を祈る、このことこそ出雲の国社寺縁座の会の神髄ではないかと思っている。

世界の現状からみても宗教宗派を超えて共存することがいかに難しいかを考えれば8年にわたる取り組みはこれからの世界に必要なことではないか。県域を超え大山の大神山神社（9番）と大山寺（10番）も参画されているのもうれしい。出雲の国から平和の祈りを世界に、という思いで私も映画つくりをしていきたい。20番の札所をまわるには良い季節がやってきた。

（錦織良成・映画監督）

＝第2、4金曜掲載＝